

## OnAir 3000 ユーザーレポート

### 静岡放送 株式会社 様

OnAir 3000-21F



αスタジオを OnAir 3000 で更新



静岡放送株式会社  
技術局 技術センター  
田代 敏康

#### αスタジオ

2014年12月に20年以上使用したαスタジオ音声卓を更新しました。αスタジオはSBSラジオのメインスタジオで、毎日朝から晩まで多くのワイド番組をOAし、災害時の基地として、また多くの特番を行うスタジオとして稼働しています。更新に当たっては、機器信頼性は当然のことですが、運用人員の省力化、誰でも簡単に事故なく運用できること、デザイン的に静岡らしさを出すことを目標に検討しました。

#### 機種選定

SBSラジオではスタジオ運用は音声卓操作まですべてラジオ制作が行います。そのため今回のスタジオ更新は、ラジオ制作が納得いくまで話し合い、自分たちで作り上げたスタジオだという意識を持てるよう打ち合わせを重ねていきました。数社の音声卓のデモを行い、実際に操作感を確かめ比較検討しました。STUDERの音声卓は、制作から「フェーダーの操作感がよく、余計なスイッチやボタンがなくシンプルで使いやすいそうだ」という意見が多く聞かれました。

また、国内外の採用実績が多数あり、実際に採用された局に使用感、技術的信頼性など聞いたところ、よい評判を聞き、今回STUDERのOnAir 3000を採用することに決定しました。

#### コンソールデザイン

機器、フェーダー配置に関しては、少人数で運用できるよう実寸大の段ボールモデルでレイアウトを試行錯誤し、CDやDAWのような周辺機器をオペレートするのに最適な位置を検討した結果、通常運用もワンマン運用も対応できる環境になったと思います。今回は、スタジオ内装はそのまま使用し、音声卓周りだけの更新でしたので、新しいSBSラジオがスタートしたという想いを込めたデザイン、さらに静岡らしさをアピールできるデザインで、スタジオ全体が新しくなった感を目指し、デザイン選定には仕様、機器配置以上に時間をかけて議論しました。STUDER営業さんには短い工期にやきもきしながら気長につきあっていただき、大変感謝しております。その甲斐もあって出来上がったスタジオは通称「富士山スタジオ」。操作部分はシルバーを基調に、手元や作業スペースなどは濃紺にし、上から白、シルバー、濃紺、黒のグラデーションの美しい富士山をイメージした他に類を見ないスタジオができました。

また技術面では、従来スタジオマスター間伝送素材はアナログマルチケーブル、あるいは回線マトリクスを使用していたところに、今回MADI多重伝送を採用しました。そのおかげで配線もシンプルになり、音声卓入力ユニットも削減することができました。マスター素材のMADI多重化により、今後行われる他スタジオ更新時にも柔軟に対応できると思っています。

#### 導入から1年

導入から1年が経ちましたがトラブルもなく安定運用しています。操作研修は簡単でしたが、運用は戸惑うこともありませんでした。番組に集中でき、直感的に何をすべきかわかる、非常に人にやさしい音声卓だと認識しました。また、タッチパネルによるEQやDynamicsも視覚的にわかりやすく積極的に使用することが多くなり番組の質も向上したと思います。また優しいだけでなく特番など煩雑な運用も柔軟に対応できるのも素晴らしい点です。

αスタジオ音声卓の使い勝手がいいのかスタジオの居心地がいいのか、ワイド番組だけでなく、録音でもスタジオを使用することが多くなり、スタジオ使用率が明らかに高くなったと思います。